

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成22年10月5日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4670105123号
法人名	有限会社 ライフサポート
事業所名	グループホーム 福平
所在地	鹿児島県鹿児島市下福元町7505番地 (電話)099-2190-8550
自己評価作成日	平成 22年 7月 5日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kagoshima-kaigonet.com/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成 22年 7月 23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、鹿児島市郊外の静かな住宅街にあり、庭には、青々とした芝生が広がり、また、入居者やボランティア、職員が協力して作っている菜園には、季節の野菜が実り、収穫した野菜が食卓に上がっている。入居者の笑顔を大切にしたいと考え、月1回外食の機会をもったり、年1回の1泊旅行をユニットごとに行ったりと、楽しみごとを作っている。本人らしく暮らしてもらえるように、ゆったりと笑顔で明るく接することを職員は心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

鹿児島市南部の郊外、自然環境に恵まれた閑静な住宅地にあり、遠くに望む山々は四季を感じさせてくれる。レクリエーションの時間になると居室でゆっくりしていた利用者もいつの間にかリビングに全員集合して明るい笑い声が聞かれる。また、利用者が最も楽しみにしている毎月の外食と、1年に1回の1泊旅行は家族の理解と協力を得られ実現した。日頃、ホームの生活だけでは知りえなかった利用者の個性再発見にもつながっている。各ユニットごとでの1泊旅行も今年度はホーム全体で計画している。開設5年目になり職員も定着し、信頼関係とコミュニケーションが図られケアに対しての職員の要求水準も高く、様々な意見や取り組みの提案が出され質の高いサービスの提供がされている。今後は、個々の得意な事(裁縫、編み物、折り紙、オルガンなど)を活かし、生きがいにつながるような取り組みの実現に向けて検討している。理念にあるように、管理者、職員の利用者に対する思いが反映されて「ゆっくり、一緒に、楽しく」利用者が暮らしているグループホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
・理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し唱和しており、日々念頭において実践出来る様取り組んでいる。日々の生活場面において、一人ひとりその人らしい生活を把握しており、実践に向けて取り組んでいる。	地域密着型サービスとしての意義を踏まえた法人の理念と、「ゆっくり、一緒に、楽しく」のグループホーム独自の理念を作成している。玄関、和室、事務所に掲示してパンフレットにも明記している。職員は常に理念を確認し、理念に沿ったケアの実践に取り組んでいる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩等外出時も積極的に挨拶を行うよう心掛けている。 年末の餅つきの際は、近隣の子供達も参加したり、地元の中学校の資源回収の際には、継続的に駐車場を提供している。	町内会への加入には至っていないが、中学校の資源回収場所に広いホームの敷地を提供したり、ふれあいコンサートなどホームの催し物の案内を地域の回覧板を利用してもらうなど、事業所自体が地域の一員として交流している。また、日舞、ゴスペルなどの慰問や、小学生のサマーボランティアの受け入れなども行っている。	
3		事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	昨年は、日赤病院 脳神経外科部長 川添医師による「認知症と脳梗塞」と題した講演会を地域の公民館にて行った。サマーボランティアも受け入れ、地域の子供達に認知症について理解して貰えたらと考えている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方、民生委員、地域包括支援センター等に参加を願い、その時々課題点や問題点を提起して意見交換を行う会となっている。調剤薬局の管理薬剤師等も参加し多方面からの意見に新しい気づきがある。	民生委員、家族、地域住民、管理薬剤師、音楽療法士、行政などの参加を得て2ヵ月に1回開催している。防火訓練の反省及び意見交換、感染症に対する予防対策など多方面からの意見やアドバイスなどももらい、ホームの運営に活かしている。また、地域の高齢者情報、相談などもあり、地域貢献にも寄与している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>実務者研修・リーダー研修の他施設実習の受入、実務者研修の講師サポートをする事により行政の担当者との意見交換等をする良い機会となっている。</p>	<p>市の介護相談員の受け入れ、生活保護受給者・成年後見人利用者などおり、日頃より連携を図り協力関係を築いている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>定期的に身体拘束委員会を行い「禁止の対象となる具体的な行為」を繰り返し確認しあい、身体拘束のないケアに努めている。</p>	<p>外出傾向のある利用者については背景、原因などを探り、ホームが本人にとって落ち着く居場所となるようにケアし、日中は施錠などせず安全で自由な暮らしを支援している。また、声かけに努めスピーチカットなど言葉による拘束などないよう、職員間で確認し合っている。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>定期的に勉強会を行い、身体的虐待だけでなく、ネグレスト・心理的虐待・経済的虐待についても学習しケアを行う側の士気を高めるように努めている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>実際に成年後見人制度利用者も入居しており、日々の生活の中で各々対応している状況を必要に応じて報告するなど活用している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に、契約書、重要事項説明書の内容を読みあげながら説明を行い、不安、疑問点には、その都度質問を受け、確認しながら説明を行っている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会簿に日々のケアの中で利用者の意見、不満、苦情等を引き出せる環境作りを心掛けている。</p>	<p>面会表にメモ欄を設けたり、来訪時に家族から意見、要望を聞き出すようにしている。出された意見、要望については職員全員で話し合っって運営に反映させている。家族から利用者の趣味・特技を活かせるようにとの要望があり、安全を考慮し、本人のケアに結びつけられるように職員間で話し合いがなされている。</p>	
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>代表者は多忙な時でも、快く職員の意見に耳を傾け、解決に努めている。日常的に職員からの意見を吸い上げ意見交換をやっており運営やケアに反映させている。</p>	<p>職員間で共有すべき内容については朝の申し送りを利用して、利用者の情報の共有を図っている。また、入居については事前に職員に情報を提供して意見を聞いている。管理者は、職員の休憩時間に個々に話を聞く機会を作るなど、職員とのコミュニケーションを図っている。</p>	
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者は、多方面から職員個々の状況に気を配り職場環境・条件の整備に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新任採用時は、研修用ファイルを活用し、問題点が明確になるように努めている。夜勤者以外全員「谷山地区グループホーム勉強会」に月1回出席し勉強している。法人内外の研修にも積極的に参加している。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>谷山地区グループホームは、同業者の情報交換、交流、勉強、相互訪問が行われたり、サービスの質を向上させていくよう取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>最初はどうしても家族、担当ケアマネ等からの相談が多いが、利用に至るまでに本人とも面談する機会を作り、本人自身が困っている事、不安な事をよく聴き受けとめるように努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族が納得して安心できるよう、その都度、困っている事、不安な事を傾聴し受けとめ、解決する様になるように努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人や家族と面談する中で、何が必要かを見極めて、様々な可能性を視野に入れ対応するように努めている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>職員は本人の生活暦や趣味を知り、日々の生活の中で一人ひとりの得意な事や好きな事を、日々の生活の中で活かせる様にし、自信を持って生活出来るような支援をする。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会時に声を掛けたり、電話連絡等により、家族とコミュニケーションを図り、本人が安心して生活出来るように、思いを共有しながら、共に本人を支えていけるように努めている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>身体能力の低下により、馴染みの場への外出は厳しい時もあるが、馴染みの人と気軽に面会・外出が出来る雰囲気作りに努めている。</p>	<p>利用者の友人、知人が訪ねやすい雰囲気作りに努め、なじみの人や場所との関係継続の支援を行っている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者それぞれの性格や認知症の程度等を考慮しながら座席も配慮し、利用者同士が優しく楽しく関わり合える生活の場である様に努めている。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用 契約 が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>入院やた施設への入所の為、退所した利用者についても職員は家族と連絡を取り合ったり、面会に行ったりして本人・家族との関係を大切に保ち続けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>これまでの生き方や趣味、やりたい事などを、本人・家族との会話の中や、生活の中から一人ひとりの思い(散歩、買い物、踊りたい、唄いたい等)意向の把握に努めている。</p>	<p>生活歴や会話の中から思いや意向を把握し、本人本位に検討している。一方的な決定はせず、本人の思いを大切にして自己決定できるような支援に努めている。外出先なども会話の中から引き出し、個々の希望が叶えられるように検討している。</p>	
24		<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時に生活歴を聞いたり、日々の生活を営む中で把握できる事もあるので、日常生活の細かな事も見逃さず情報収集する様努めている。</p>	/	/
25		<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>日々のミーティング、定期的なケース会議等により一人ひとりの心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するよう努めている。</p>	/	/
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人・家族の意向を確認し、月一回スタッフ全員で一人ひとりの介護計画の見直しや支援方法などについてカンファレンスを行い、本人・家族の希望、要望が反映されたプランになるように努めている。</p>	<p>本人や家族の思いや希望、職員の意見など反映した本人本位の介護計画を作成している。朝の申し送り時などにケアについての提案が出ると、全員で検討して現状に即した介護計画を作成している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個人記録は異変や気付きは細かく記録し、本人の言動についても具体的に記録するようにし、職員全員が情報共有し統一した支援が出来るように努めている。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>美容院、通院等の外出支援等、本人・家族の要望に応じた柔軟な支援がなされるように努めている。</p>		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>ボランティアの方々による、家庭菜園・日舞やゴスペルコンサートを行う事により、豊かな暮らしを楽しむ事が出来るように努めている。</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人・家族の希望するかかりつけ医を優先し、合意の上でかかりつけ医と連携を取りながら支援している。受診時の状況を適切に把握する為「病院受診連絡表」を活用している。</p>	<p>本人、家族の状況に応じて受診の支援を行って、家族には随時報告している。家族が連れていく際は病院受診連絡票を持たせて、ホームとかかりつけ医との連携を図っている。訪問診療を受けている利用者もいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>ホーム内の看護師と、日々の状況の変化等連携を取りながら、日常の健康管理を行っている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院の際は面会に行ったり、家族からの情報を得たり、直接担当医より情報を得たりしながら、早期退院に向けての取り組みをしている。リハビリ等についても進行状況の確認をしている。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に重度化、終末期の対応について、本人・家族の意向を書面にて確認している。その方針は全員共有している。また、状況変化に応じて再確認するようにしている。</p>	<p>重度化や終末期に向けたホームの指針を作成して、重要事項説明書とともに入居時に説明し同意をもらっている。また、利用者の状態に応じて家族に再度意思確認をし、改めて同意を得るようにしている。職員もホームの方針を共有して取り組んでいる。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>救急法の講習会を年1回実施し、実際に人工呼吸や異物除去法の訓練を行っている。また、連絡網やマニュアルを事務所の目に付きやすい所に設置している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回、様々な状況を想定して消防署の指導・立会いで避難訓練を行っている。</p>	<p>利用者を交えての地震訓練や早朝、昼夜間の火災訓練など、さまざまな場面を想定した避難訓練を行っている。隣接する同法人の施設とはお互いに協力関係が構築されている。非常食、カセットコンロなどは常備しており、今年度はスプリンクラーの設置も予定している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃一人ひとりを大切にする、言葉掛けや介護方法を職員と話し合い、意識の向上を図っている。また、職員はよく理解して対応している。	毎月の勉強会で総合的に接遇、プライバシー保護なども取り上げて、職員の資質向上に取り組んでいる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、常に本人がどのように生きていきたいのを探りつつ、本人の思いを大切に、不安なく心豊かに暮らせる様、家族の思いも尊重しつつ支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望や体調に配慮しながら、起床時間、個室での食事、買い物、散歩、昼寝、掃除、入浴等日々その人らしい暮らしが出来るように努めながら支援をしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人の好む色や服を理解し、心地よくおしゃれが出来るように努めている。外出が困難な方も、美容師さんに来所して頂き、その人らしい身だしなみに心掛けている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を一緒に考えて、メニューに好みの意見を取り入れるようにしている。本人の力量に応じて一緒に菜園の収穫、食事準備を行い、楽しく会話をしながら同じものを食べている。	家庭菜園でできた野菜の収穫を楽しんだり、ときには利用者の希望に応じてうなぎやお刺身など献立に取り入れている。毎月の外食（回転すし、レストラン、道の駅、ソーメン流しなど）は利用者の楽しみにもなっており、利用者の希望を聞いて行き先を検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>献立については保健センターのアドバイスを受け、栄養バランスを考えた献立作りに努めている。水分が不足がちな方にも工夫して摂取確保に努めている。</p> <p>食事量も一人ひとりにあわせて提供している。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後一人ひとりの状況に応じて声掛けやセッティング、仕上げ磨きを行っている。定期的に歯科医師による口腔チェックを行っている。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>一人ひとりの力や排泄のパターン習慣を理解し、適切に声掛け介助することにより、排泄の失敗やおむつの使用を減らせるように努めている。</p>	<p>個々に排せつチェック表を作成して、24時間実際に排せつがあった時間を記入し、個々の排せつパターンを把握するようにしている。基本的にはおむつ使用はしない方針で排せつの自立を支援しており、現在、布パンツの利用者も多い。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>10時にはオリゴ糖入りのホットミルク、毎日の食事、おやつにも繊維性の食物を多めに摂取するなど工夫している。排便の周期をチェックし水分摂取、散歩や腹部マッサージ等も随時行っている。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している</p>	<p>一番風呂に入りたい人、午後から入りたい人、一人ひとりの希望やタイミングに応じて楽しく入浴出来るように支援している。</p>	<p>毎日、入浴する利用者や入浴剤を入れたお風呂を楽しむ利用者もあり、一人ひとりの希望に応じた入浴の支援を行っている。毎年、温泉旅行にも出かけており利用者の楽しみになっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人で居室に居るのが不安な人、なかなか寝付けない人、さまざまだが、不眠時はホットミルクを飲んでもらったり、話をしたりして、安心して休息、眠れるように支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局で個別セットにしてもらい、間違いなく投薬できるようにしている。又職員は薬の目的や副作用、用法について理解している。与薬表を利用し漏れが無いように努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や日々の単純な作業等で一人ひとりに出来ることや得意なことを分担して、ホームの一員としての役割や自信を持って生活出来る様支援する。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームの庭が広く芝生が敷き詰められ、季節の花が等が植えられており、戸外の陽ざしや風を感じる事が出来るように、中庭の散歩を日課にしている。月に1回外出に出掛けたり、年に1回1泊旅行に出掛けたりしている。	日常的には散歩、買い物同行などで戸外に出かけられるように支援している。また、毎月外食を兼ねた外出の機会を設け、年1回職員、利用者全員で一泊旅行にも出かけている。家族の理解と協力の下実現しており、利用者の楽しみとなっている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や、力量に応じてお金を所持し、必要に応じて一緒に買い物に出掛けたり、欲しい物を頼まれて買って来たりしながらお金を所持したり使えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族や大切な人に、電話をしたいた時は、電話が出来るように支援している。また、家族と手紙のやり取りを続けている方には、職員が預かりポストに投函している。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>カーテンや暖簾を有効に使い、また、庭や畑から季節の花などを摘みテーブルや玄関に飾り、季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共用空間は落ち着いた雰囲気がある。和室もあり、遠くに見える山々の景色は四季を感じることができる。トイレ、洗面のスペースには長椅子が備え付けられており、くつろぎのスペースにもなっている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用空間にソファやテーブル、和室を設置し気の合った利用者同士思い思いに過ごせるように工夫している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの備品であるベットやタンスの外、自宅から持って来た馴染みの身の回りの品々に加えて、大切な家族の写真や思い出の品など一人ひとりの個性ある居室になっている。	各居室ごとに、カーテンと壁のクロスの柄を変えて部屋に特徴をもたせている。人形やラジカセ、時計など大切に置かれている居室や仏壇・位牌、家族の写真などがあったり、家で使い慣れたタンス、鏡台、扇風機などが持ち込まれてそれぞれに本人が居心地良く過ごせるように工夫されている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	さまざまな所に手すりを設置し、安全かつ出来るだけ自立した生活が送れるようにしている。トイレのライトは、センサー式にしており、扉は引き戸で無理なく開閉出来るように工夫されている。		

アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1	ほぼ全ての利用者の
		2	利用者の2/3くらいの
		3	利用者の1/3くらいの
		4	ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1	毎日ある
		2	数日に1回程度ある
		3	たまにある
		4	ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1	ほぼ全ての利用者が
		2	利用者の2/3くらいが
		3	利用者の1/3くらいが
		4	ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36,37)	1	ほぼ全ての利用者が
		2	利用者の2/3くらいが
		3	利用者の1/3くらいが
		4	ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1	ほぼ全ての利用者が
		2	利用者の2/3くらいが
		3	利用者の1/3くらいが
		4	ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	1	ほぼ全ての利用者が
		2	利用者の2/3くらいが
		3	利用者の1/3くらいが
		4	ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1	ほぼ全ての利用者が
		2	利用者の2/3くらいが
		3	利用者の1/3くらいが
		4	ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9,10,19)	1	ほぼ全ての家族と
		2	家族の2/3くらいと
		3	家族の1/3くらいと
		4	ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1	ほぼ毎日のように
		2	数日に1回程度ある
		3	たまに
		4	ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1	大いに増えている
		2	少しずつ増えている
		3	あまり増えていない
		4	全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11,12)	1	ほぼ全ての職員が
		2	職員の2/3くらいが
		3	職員の1/3くらいが
		4	ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1	ほぼ全ての利用者が
		2	利用者の2/3くらいが
		3	利用者の1/3くらいが
		4	ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1	ほぼ全ての家族等が
		2	家族等の2/3くらいが
		3	家族等の1/3くらいが
		4	ほとんどいない